資料1

第３回三重県教育改革推進会議（１０月２５日）の意見概要

１　県立高等学校の活性化方策について

○　「（２）社会とつながり貢献する力の育成」と「（４）地域で学び地域を活かす教育の推進」を統合するなど、構成を一部変更した方が分かりやすい。

○　人権教育の推進にあたっては、生徒一人ひとりの個性や生き方を互いに認め合い尊重される多様性の視点が大切である。

○　運動部活動活性化や競技力向上にかかる記述が少ない。外部指導員の招へい等の取組を位置づけるべきではないか。

○　文化部活動で身につけたスキルを生徒が自主的に地域で活かしていくという視点が大事である。

○　卒業生が大学や社会のことを現役生に教えるなど、卒業生のネットワークを活用していく取組が高校の活性化につながるのではないか。

○　利用しやすい奨学金制度に加えて、高校卒業後も生活していける、自立していけるといった視点が大切である。

○　企業の現場や実態を知る取組は、職業系専門学科の生徒だけでなく進学校の生徒にとっても重要である。

○　教員の資質向上のため、修士・博士の採用枠を設けたり、学校現場で必要とされていることを大学の講座として設定したり、指導主事が大学で講義するなど、教員の採用・養成段階の取組を充実する必要がある。

２　県立高等学校の規模の考え方について

○　教育の質の保証や生徒の社会性育成のため、高校には一定の規模が必要である。小規模校を存続する場合には、例えば地域振興のために戦略的に重要な学校であるなど、積極的な理由が説明できないと県民の納得は得られない。

○　高校においては、多様な人と交流し、多様な経験をすることが大切である。規模のある学校には多様な生徒がいるため、個性の強い生徒でも孤立することなく高校生活を送ることができる。

○　地域の特色を生かした職業専門学科を設けることが小規模校の活性化につながる。大規模校よりも小規模校の方が特色を出しやすい。

○　小規模校はデメリットよりも、一人ひとりの子どもに手が届くことなどメリットの方が大きい。授業や部活動で他校との交流を推進することにより、小規模校のデメリットを最小化することができる。

○　小規模校では運動部活動の種類が限定されるというデメリットについては、種目のターゲットを絞り、指導の充実を図ることでメリットに変えることができる。

○　小規模校を存続するにあたっては、地域からの積極的な支援が必要不可欠である。校内の取組を活性化するだけでは存続は難しい。